

こんにちは 市民病院です

緩和ケアチーム

当院では、定期的に緩和ケアチームによる「緩和ケアカンファレンス」を開催しています。緩和ケアとは、がんなどの重い病気を持つ患者さんやそのご家族が感じる、身体の痛みや息苦しさはもちろん、不安や悩みといった心のつらさや日常生活での不便さにも目を向け、その方らしく穏やかに過ごせるよう支える医療のことです。病気と向き合う患者さんとご家族の心身の負担を少しでも和らげ、生活の質を保つために欠かせないケアです。

このカンファレンスでは、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、リハビリスタッフなど、多くの職種が集まり、一人ひとりの患者さんの状況や要望を共有しながら、より良い支援方法について話し合います。例えば、医師が治療の方針や病状の見通しを伝え、看護師が日々の生活の変化や患者さんの気持ちを報告。管理栄養士は食事や栄養面の工夫を提案し、薬剤師は薬による効果や副作用の管理について助言します。さらに、リハビリスタッフは動きや日常生活の機能をサポートする視点から意見を出し合い、それぞれの専門性を活かして話し合います。

こうして多方面から意見を集めることで、「今、この患者さんにとって最もつらいことは何か」「どんな関わりが安心や安らぎにつながるのか」をじっくり考えられます。緩和ケアは、病気が進んだときだけでなく、治

療の早い段階から関わるのが大切です。身体的な症状だけでなく、心のケアや生活のサポートも同時に行うことで、患者さんができるだけ快適に、そしてその人らしく毎日を過ごせるよう支えています。

私たち緩和ケアチームは、これからも多職種が連携しながら、患者さんにご家族に寄り添った医療の提供に努めてまいります。気軽にご相談いただける環境づくりにも力を入れていきたいと考えています。



問 飛騨市民病院
☎ 0578-82-1150



<その74> はじめませんか？

暮らしの質を上げる

会社勤めに定年はあっても、毎日の生活の中での家事には定年がありませんから、歳を重ねるごとに、若い頃と同じように家事をこなすことが次第に難しくなり、重荷に感じることも増えてくると思います。

日常的に行っている家事のやり方は、各家庭でそれぞれ違いがあり、もしかしたら、気づかぬままに無駄な家事を一生懸命やっているかもしれません。そこで、これまでの思い込みを一旦手放して、家事を楽にこなす工夫を考えてみませんか。

家事を楽にするなら『物を減らす』この一言につきます。そうすることで労力も軽減することができるのです。

例えば、当然のことながら片付けが楽になります。物を減らし定位置さえ決めておけば、少くらい散らかったとしても、簡単に元に戻すことができますし、物が少ない分ほこりもたまりにくく、たまっていても、いちいち除ける物がないので拭きやすくなります。

また掃除機をコードレスに変えたり、床には物を置かないようにすれば労力はずいぶん違ってきます。

毎日の食事作りも、あまり使わない調理器具や食器を減らせば、出し入れがスムーズになります。洗い物を減らそうと思えば、一つのお皿におかずを盛り切りにしてしまうという手もあります。冷蔵庫の中も中身を全部把握できるくらいの食材にし

ておけば、献立を考えることもスムーズです。

物を減らし、家事を楽にすることで得られる効果は、単なる労力の軽減にとどまりません。生活がシンプルになれば余裕やゆとりが生まれます。余裕が生まれれば生活の質も上がり、豊かで快適な暮らしになることでしょう。

6月の終活セミナー 安心+楽に暮らせる 片付け術

■ 6月6日(土) 13:30 ~ 15:00
■ 神岡町コミュニティセンター

お申し込みは下記まで

問 飛騨市終活支援センター
(飛騨市社会福祉協議会内)
☎ 0577-73-3214